



2022年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年5月13日

上場会社名 日本和装ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2499 URL <https://www.wasou.com/profile/ir/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 道面 義雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 鶴野 尚史 TEL 03-5843-0097
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 2022年6月20日
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第1四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第1四半期	1,011	—	△50	—	△54	—	△59	—
2021年12月期第1四半期	960	△20.5	△84	—	△75	—	△68	—

(注) 包括利益 2022年12月期第1四半期 △53百万円 (—%) 2021年12月期第1四半期 △65百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第1四半期	△6.51	—
2021年12月期第1四半期	△7.57	—

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年12月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。このため、売上高については対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第1四半期	8,516	3,180	37.3
2021年12月期	8,958	3,296	36.8

(参考) 自己資本 2022年12月期第1四半期 3,180百万円 2021年12月期 3,296百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年12月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	5.00	—	7.00	12.00
2022年12月期	3.00	—	—	—	—
2022年12月期（予想）	—	3.00	3.00	4.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,093	—	460	3.4	450	0.5	272	0.6	30.06
	～5,193	～—	～513	～15.3	～498	～11.2	～305	～12.9	～33.73

- （注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無
 2. 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。このため、売上高については対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
 ② ①以外の会計方針の変更： 無
 ③ 会計上の見積りの変更： 無
 ④ 修正再表示： 無

（注）詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期1Q	9,134,000株	2021年12月期	9,134,000株
② 期末自己株式数	2022年12月期1Q	68,400株	2021年12月期	68,400株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期1Q	9,065,600株	2021年12月期1Q	9,065,600株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、前第1四半期連結累計期間と収益の会計処理が異なることから、以下の経営成績に関する説明については、売上高の前年同四半期比(%)を記載せずに説明しております。

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み、まん延防止等重点措置が解除されるなど、緩やかながらも回復に向けた動きが見られるようになりました。

しかしながら、一旦は再開された経済活動も、新たな変異株の出現や、ロシア・ウクライナ情勢の影響による世界経済の停滞など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、感染拡大の抑制に必要な対策、対応を実施しながら営業活動を行ってまいりました。

当第1四半期連結累計期間における業績面につきましては、イメージキャラクターとして鈴木保奈美さんを採用し、「やります!もっと着物、自由化宣言」をキャッチフレーズに多様なニーズに応えるべく、「完全手ぶら教室」「同世代教室」など様々な教室とサービスに取り組んでまいりました。また当社グループの初の試みとなる「イエローカード制」を導入いたしました。こちらは万が一お客様にご不快なことがあった際には、その声がダイレクトに社長室に届く仕組みとなっております。お客様の満足度向上に努めていくことやガラス張りの運営を目的としております。

子会社であるニチクレ株式会社では、2021年12月に経済産業省から「友の会事業」の許可を受けました。これに伴い、当社グループでは、2022年1月より「日本和装友の会」をスタートいたしました。顧客サービスのより一層の充実や決済手段の多様化を図ってまいります。

今後は当社の「教えて・伝えて・流通を促す」という従来のビジネスモデルのメインブランドに加えて、サブブランドの創造にも注力してまいります。サブブランドでは、これまででは対面で教え伝えていたものを、オンラインも活用して、当社メインブランドよりも低年齢層となる20代から40代をターゲットとして市場や新規顧客を開拓し、販売へとつなげてまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における経営成績につきましては、売上高は1,011百万円(前年同四半期は960百万円)、営業損失は50百万円(前年同四半期は営業損失84百万円)、経常損失は54百万円(前年同四半期は経常損失75百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は59百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失68百万円)となりました。

なお、当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心とした、きもの関連事業の単一セグメントのため、セグメント情報に関連付けた記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は8,086百万円となり、前連結会計年度末に比べ467百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が367百万円、割賦売掛金が201百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は430百万円となり、前連結会計年度末に比べ25百万円増加いたしました。これは主に投資その他の資産が23百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、8,516百万円となり、前連結会計年度末に比べ441百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は2,992百万円となり、前連結会計年度末に比べ908百万円減少いたしました。これは主に短期借入金が639百万円、未払法人税等が130百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は2,343百万円となり、前連結会計年度末に比べ583百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が583百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、5,336百万円となり、前連結会計年度末に比べ324百万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は3,180百万円となり、前連結会計年度末に比べ116百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失59百万円及び剰余金の配当63百万円等によるものであります。

この結果、自己資本比率は37.3%(前連結会計年度末は36.8%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年12月期連結業績予想につきましては、2022年2月14日の「2021年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

<第1四半期の事業の概況等に関する社長のコメント>

2022年12月期の第1四半期におきましては、コロナ禍と呼ばれる年となって3年目を迎えました。年初に新型コロナウイルス感染者数が全国的に増加したことに伴い、全国規模によるまん延防止等重点措置が実施される中でのスタートとなりました。今までの2年間で経験したことを活かし、十分な感染予防対策を実施した上で営業活動に注力いたしました。

当社のビジネスモデルの特徴上、毎第1四半期（1月～3月）に、テレビCMをはじめとする「無料きもの着付け教室」の受講者募集広告を実施いたします。先行投資の当第1四半期連結会計期間に関しましても、前年同四半期比において赤字幅を大きく減少することができました。当期の新しいイメージキャラクターとして鈴木保奈美さんを採用し、「やります！もっと、着物自由化宣言」をテーマに、春のきもの着付け教室の広告キャンペーンを展開いたしました。着物をより一層身近に感じてもらえるように新たな入口として、同世代だけで学べる「同世代教室」やお友達とだけで習える「友達だけ教室」など、今まで以上に着物や着付けに対する敷居を下げることによって、今まで獲得できなかった顧客層のニーズに応えるサービスを展開してまいりました。

2022年12月期第1四半期連結業績

	第1四半期（1月～3月）			
	2021年	2022年	前年同四半期比 増減額	前年同四半期比 増減率
売上高	960,155千円	1,011,228千円	51,072千円	—
営業損失	△84,716千円	△50,017千円	34,699千円	—
経常損失	△75,355千円	△54,577千円	20,778千円	—
四半期純損失	△68,622千円	△59,035千円	9,587千円	—

（注）「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年12月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。このため、売上高については対前年同四半期増減率は記載しておりません。

前年同四半期と比較すると、売上高は増加し、営業損失、経常損失、四半期純損失共に、改善での着地となっております。売上高の増加要因につきましては、前第1四半期連結会計期間は緊急事態宣言中であったことから、春のきもの着付け教室の開講をはじめ、既存顧客様対象の催事を延期・中止せざるをえませんでした。当第1四半期連結会計期間においては既存顧客様向けの催事を無事に開催でき、大変好評を博したことがあげられます。特に毎年夏に開催している美しさを競うきもの着姿コンテストの「きものプリリアンツ全国大会」の出場権を獲得する為の登竜門でもある「きものプリリアンツ地区大会」は、全国20会場の内15会場が当第1四半期連結会計期間での開催となり、多くのお客様に足を運んで頂いたことで、販売仲介の取扱高は、前年同四半期比において約59,000千円増加いたしました。「きものプリリアンツ」とは、当社が作った造語となります。この造語の意味は、ダイヤモンドの原石に施すプリリアンツカットをモチーフにさせて頂いております。教室の卒業生は20万人を超えておりますが、きもの着姿もプリリアンツカットのように磨けば磨くほど、その着姿は美しくなります。そのきもの着姿のお披露目の機会が、さらに女性を輝かせることの一助を担うことができるといった思いからスタートしたのが「きものプリリアンツ」です。

2022年2月には、新しい役員体制の発表と私個人での当社株式を市場から買い付けさせて頂くことを発表いたしました。私自身が当社の株式を保有することは、株主様と異体同心となり、日本和装ホールディングス株式会社という会社の喜びも痛みも共有できるようになることが何よりもステークホルダーの皆さまの為になることだと考えました。今まで以上に責任と使命を背負い、業務執行に励んでまいります。

当社を取り巻くきもの業界は、日本文化の継承により、維持・発展していくと考えております。その為には、「きもの業界をひとつにする」ことを推進してまいります。具体的には、当社日本和装グループの友の会事業、割賦販売事業、和服縫製事業等をより多くのきもの業界の方々にご利用頂き、当社が業界の支え役となるように取り組んでまいります。どうぞ皆さま、引き続き日本和装グループを宜しくお願い申し上げます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,870,407	2,502,876
営業未収入金	208,002	195,162
割賦売掛金	4,930,393	4,728,970
棚卸資産	144,906	143,220
その他	465,004	582,926
貸倒引当金	△65,186	△66,772
流動資産合計	8,553,527	8,086,384
固定資産		
有形固定資産	165,138	159,306
無形固定資産	9,911	17,666
投資その他の資産	229,835	253,531
固定資産合計	404,885	430,504
資産合計	8,958,413	8,516,888
負債の部		
流動負債		
営業未払金	29,900	37,996
短期借入金	2,690,854	2,051,551
未払法人税等	151,103	20,642
前受金	430,643	—
契約負債	—	364,746
営業預り金	14,195	34,798
その他	584,177	483,049
流動負債合計	3,900,873	2,992,784
固定負債		
長期借入金	1,753,994	2,337,442
その他	6,625	6,510
固定負債合計	1,760,619	2,343,952
負債合計	5,661,493	5,336,737
純資産の部		
株主資本		
資本金	478,198	478,198
資本剰余金	292,211	292,211
利益剰余金	2,546,864	2,424,369
自己株式	△22,629	△22,629
株主資本合計	3,294,644	3,172,149
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,275	8,001
その他の包括利益累計額合計	2,275	8,001
純資産合計	3,296,919	3,180,151
負債純資産合計	8,958,413	8,516,888

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
売上高	960,155	1,011,228
売上原価	94,933	88,260
売上総利益	865,222	922,967
販売費及び一般管理費	949,939	972,984
営業損失(△)	△84,716	△50,017
営業外収益		
受取利息	19	14
助成金収入	21,178	3,120
為替差益	745	1,642
その他	610	388
営業外収益合計	22,553	5,165
営業外費用		
支払利息	7,638	6,420
支払手数料	5,508	3,232
その他	45	72
営業外費用合計	13,192	9,725
経常損失(△)	△75,355	△54,577
税金等調整前四半期純損失(△)	△75,355	△54,577
法人税、住民税及び事業税	8,937	26,273
法人税等調整額	△15,670	△21,815
法人税等合計	△6,732	4,458
四半期純損失(△)	△68,622	△59,035
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△68,622	△59,035

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
四半期純損失(△)	△68,622	△59,035
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	3,283	5,725
その他の包括利益合計	3,283	5,725
四半期包括利益	△65,339	△53,309
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△65,339	△53,309

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、顧客への商品の提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客から受け取る額から商品の仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高及び売上原価が42,349千円減少しておりますが、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「前受金」は、当第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定及び会計上の見積りについて、重要な変更はありません。

(セグメント情報)

当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。